



令和2年5月撮影 桑名駅 自由通路と新駅舎(東口)

## 伸びゆくまち・桑名

桑名のまちづくりが進んでいく様子をシリーズ化してお伝えしていきます。

約 50 年ぶりにリニューアル

第 19 弾

# 生まれ変わる桑名駅

桑名駅の橋上駅舎・自由通路が、平成 29 年からの整備を終え、8 月末から利用できるようになります。引き続き旧駅舎を解体し、新駅舎のデザインと調和した駅東口・西口の広場の整備を進めていきます。桑名の玄関口を刷新し、より利用しやすい駅・さらにはぎわうまちをめざしています。

## 駅の東西をつなぐ 自由通路と新駅舎

東海旅客鉄道（JR）・近畿日本鉄道（近鉄）・養老鉄道が乗り入れる桑名駅に、橋上駅舎と自由通路が間もなく完成します。踏切へ迂回しなくても駅の東側と西側を往来できるようになり、今まで一緒だったJRと近鉄の改札口が別々に設置され、分かりやすくなります。

通路と駅舎のデザインは、桑名宿の玄関口を象徴する「伊勢国一の鳥居」や、六華苑を設計したジョサイア・コンドルの建築思想「和洋折衷」、

本多忠勝の兜の黒などがコンセプトになっています。工事はJRと近鉄が東西から行い、別々の工事で施工するため、デザインに統一感をもたせることが課題でした。市・鉄道事業者・設計会社・施工会社が知恵を出し合い、細かな仕上げまでこだわりながら決定していきました。

従来の線路上空に通路と駅舎を新設するため、苦労もありました。JR・近鉄共に最も注意を払ったのは、乗客と鉄道の安全です。JRは「線路脇の地中基礎工事で線路に影響を出さないこと、ホームの工事用エリアを最小限にして乗客の安全誘導

に努めることなど、細心の注意を払いました」と言い、近鉄も「夜の電車が走らない約4時間で215人の作業員が力を合わせ、プラットホームを155mにわたって一気に拡幅し、線路を一夜で移動させました。また乗客の安全や近隣の騒音に配慮しつつ、ホーム上から深さ37mの基礎杭を地中に打ち込む作業にも苦心しました」と言います。

駅周辺からにぎわいが広がり、駅を起点にまちへ人が流れることが期待されています。JR・近鉄は「地域の皆さんと共に発展し、愛される駅となるよう努めていきます」と語っています。



1



2



3



4

工事が進む桑名駅（令和2年5月・6月撮影）①東口正面 ②切符売り場 ③自由通路 ④西口正面

## 桑名駅 自由通路・橋上駅舎

### 8月末 供用開始予定

- 桑名駅自由通路(歩行者専用道路) / 全長約176m、幅員6m  
車いす対応エレベーター（東口、西口）、エスカレーター（西口）  
事業費 約97億円、事業予定年度 平成28年度～令和3年度  
（既存駅舎撤去工事を含む・駅前広場整備を除く）

問 駅周辺整備課 ☎ 24-1196 FAX 24-1386



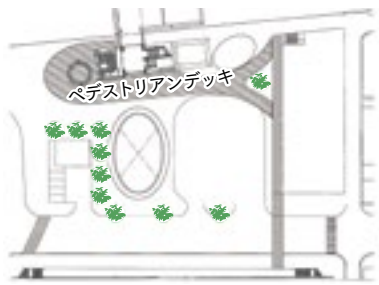


桑名駅東口前広場のイメージ案

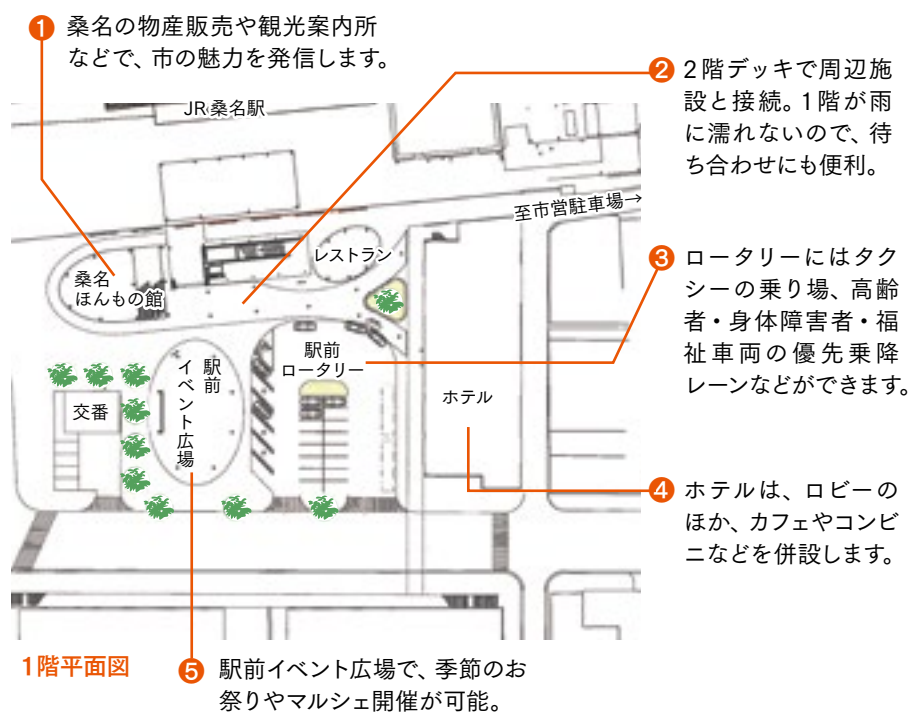


## 桑名駅東口前広場 リニューアル計画

桑名駅東口の広場整備では、民間のアイデアやノウハウを生かし、市の財源負担軽減を図りながら、便利で持続可能なまちづくりをめざします。市はプロポーザルの結果、「レジャー施設「ナガシマリゾート」を運営する長島観光開発株式会社を優先交渉権者に決定しました。同社の提案は、11階建てホテルを中心に、歩道橋と広場の機能を併せ持つペDESTリアンデッキ、駅前広場、観光・物産館などを含みます。屋内と屋外が一体化し、駅前がまちな顔・憩いの場所となる計画です。



2階平面図



1階平面図

南から見た図



※本ページの計画内容は、今後変更の可能性があります。

# 写真で見る桑名駅ヒストリー



桑名駅は現在JR関西本線、近鉄名古屋線、養老鉄道が乗り入れ、徒歩圏に三岐鉄道北勢線が接続しています。桑名駅の歴史はJRが明治27年、近鉄・養老鉄道は大正8年にさかのぼります。戦後の復興事業に桑名駅周辺は含まれませんでした。昭和44年からの再開発で駅前ビルや北勢線が整備されました。①昭和10年頃 ②③昭和50年前後 ④昭和52年頃 ①～④中央図書館蔵

この記事に関するお問い合わせは、秘書広報課へ (☎ 24-1492 FAX 24-1119)

## 市長がふれる！ 未来の本物力

No.7 生まれ変わる桑名駅

今月の特集は「生まれ変わる桑名駅」です。今回は、現在建設工事中の桑名駅自由通路および橋上駅舎の工事を担当しているJR東海の森川篤志さんと近鉄の藤田輝男さんに案内をしていただきます。

桑名駅自由通路の工事は平成29年8月から始まっており、この広報が発行される頃には工事の80%ぐらいは進んでいる予定です。今年の8月末には完成し、皆さんにご利用いただけるよう準備を進めています。

工事現場の階段を上り、自由通路部分までたどり着いた瞬間、私が感じたのは「広くて、抜けるな」という開放感でした。それもそのはず、自由通路は全長なんと約176m！壁にガラス材を多用することで採光し、非常に明るい印象を持ちました。足元に複数の線路が走っているため、電車好きな子どもたちが列車を見るために自由通路に並ぶ姿が目につかびます。

ちょうど案内していただいたタイミングで、東口の昇降部の足場を解体していました。今では駅をご利用の人にもご覧いただけるようになりまして、レンガや木材の雰囲気

で落ち着いた印象になります。また自由通路自体も、デザインコードが決められており、黒色をベースにした木材や石材のおかげで、雰囲気のある仕上がりになっています。

そして改札。JRと近鉄と養老鉄道、それぞれの鉄道に改札があります！これ



近鉄の藤田さんから工事中の安全対策について教えていただきました。



までの桑名駅に慣れていない私からすると、とても新鮮に感じました。店舗が入るスペース、トイレ、社員の当直施設なども見学させていただきました。

西口の足場も7月には解体する予定です。完成がとても楽しみになってきました。市民の皆さんにとって、より満足度の高い桑名駅となるよう、そしてより満足度の高い中心市街地となるよう、これからも桑名駅周辺の整備も含めて、引き続き取り組んでまいります。



JRの森川さんから自由通路の採光の工夫についてお話を聞きました。